

1 - 3 函館付近の群発地震活動 (続)

On the Earthquake Swarm near Hakodate, Southern Hokkaido (to be continued)

北海道大学理学部
Faculty of Science, Hokkaido University

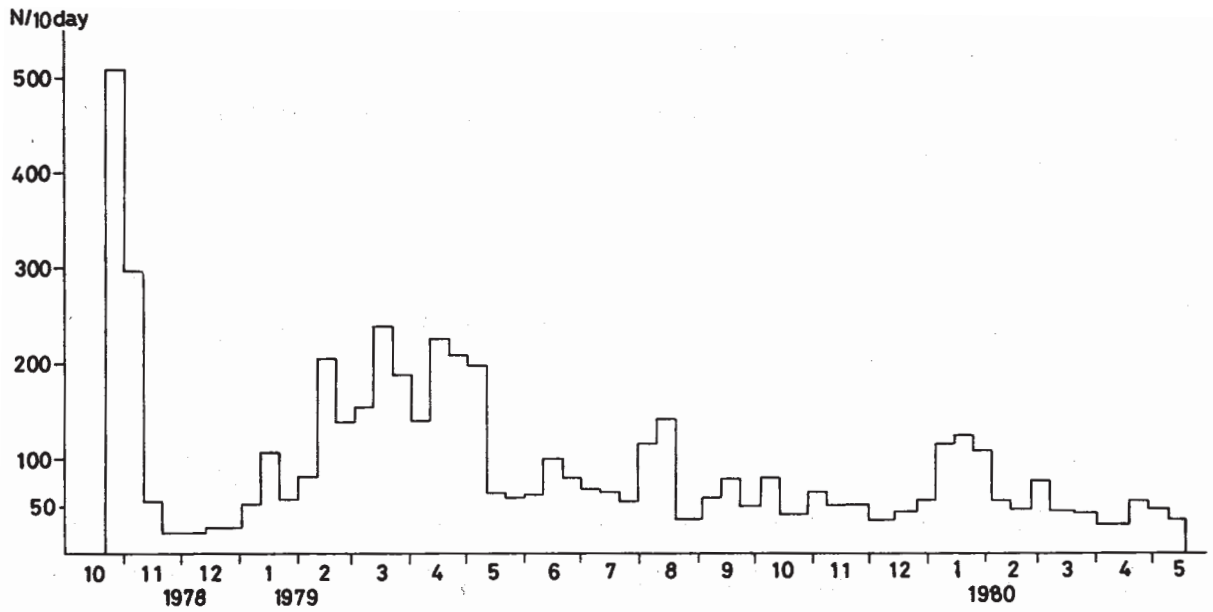
1979年11月までの活動状況は前報¹⁾に報告してあるが、その後1980年1月に再び活動が活発化し、有感地震回数も増えてその後の状況が心配された。しかし、活発であったのは1月だけで、2月以降の活動は比較的落ち着いているが、5月末でもまだ活動は続いている(第1図)。

前報¹⁾にも示したように活動域は、函館山付近(NW-region)と南東に約5km離れた所(SE-region)の2カ所に分かれていたが、SE-regionの活動は1980年になって著しく衰退し、5月にはこの領域の活動はほとんど終息したかにみえる(第2図)。他方、NW-regionでの活動は、1979年8月と1980年1月の2回にわたって活発化を繰り返し、現在も続いている。この領域は函館市街地に特に近いこともあり、なお今後の活動状況を監視する必要がある。

(本谷義信)

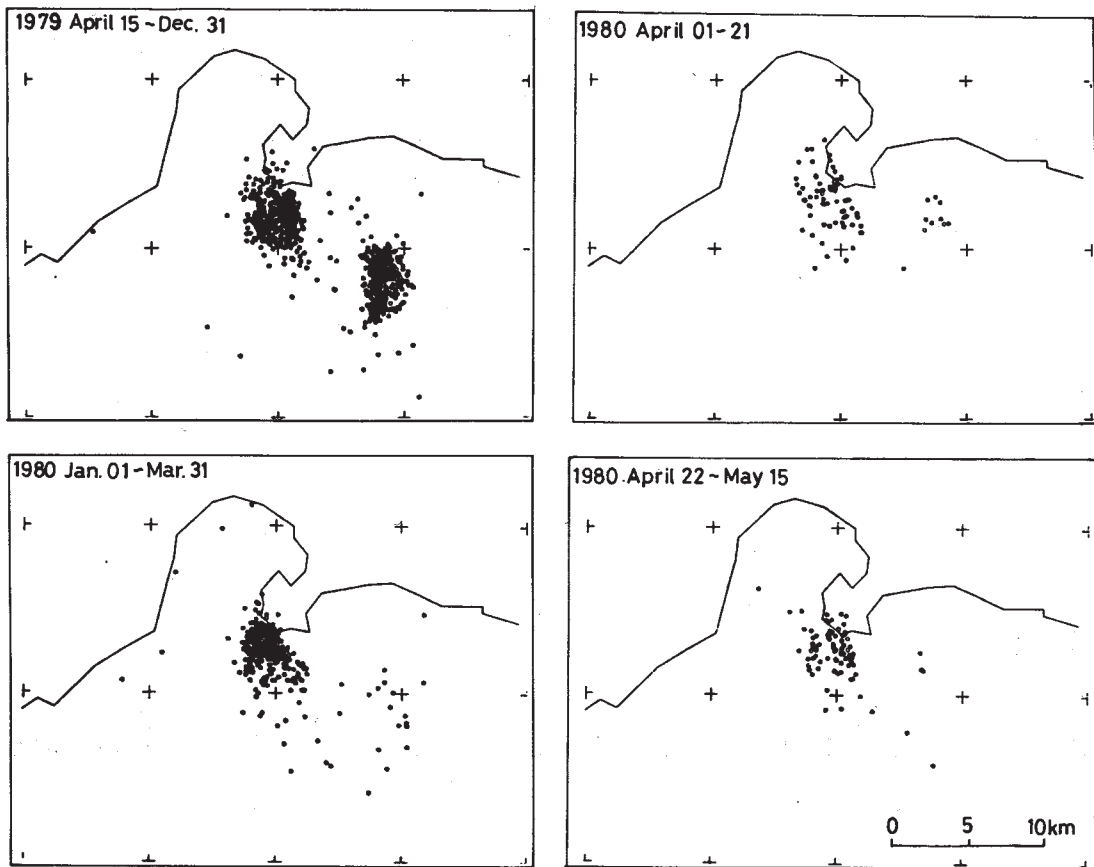
参 考 文 献

- 1) 北大理学部：函館付近の群発地震活動(続)，連絡会報，23(1979)，3-5.



第1図 函館群発地震の発生頻度。恵山観測点（ESH）で観測された $M \geq 0$ の地震の10日毎の回数（50回以下の場合には10日毎とせず、合計で50回を超える期間をとって、縦軸にその期間での10日平均値を示してある）

Fig. 1 Frequency of earthquakes every ten days.
Earthquakes with $M \geq 0$ were counted at ESH station.



第2図 函館周辺に展開中の臨時地震観測網で決められた震央分布

Fig. 2 Location of earthquakes observed by a temporary seismic network around Hakodate.